

目薬をさすときのヒント

- ①あおむけに寝かせて保護者のひざの上で固定する
- ②下まぶたを下げて、下まぶたの上にさす（目を閉じさせるとくすりが目の中に入ってしまいます）
- ③さす時に目を閉じてしまう場合は、目頭付近にさす（まばたきをさせるとくすりが目の中に入ってしまいます）

※泣いている間は涙で目薬が流れてしまうので避けてください。

※容器がまぶたやまづけに触れないよう注意してください。

※さしたあとは、子どもが手でこすらないようしばらく目頭を押さえてあげるとよいです。

「子どもがあばれて、さすことができない・・・」

「こわがって、泣いてしまう・・・」

こんなときは、寝っている間にさしてみてはいかがでしょうか。

子どもが嫌がらないうちにさっとすませることがポイントです。



点耳薬をさすときのヒント

- ①点耳薬を手でにぎるなどして、体温近くまで温める



- ②横向きに寝かせて固定する

- ③耳の穴の壁に沿って、指示された滴数を落とす

※耳たぶを引っ張りながらゆするとくすりが奥まで入っていきます。

※起こしたあと、耳の外に流れたくすりは拭き取りましょう。

めでいさぽ きっず

子どもと保護者のための服薬応援サイト

めでいさぽきっず

検索



- 年齢や成長に合わせたくすりの飲ませ方のヒント
- 子どもと一緒にくすりへの理解を深められるミニえほん
- くすりを飲んだことをチェックできるぬりえ など

他にもいろいろ
公開中!
ぜひウェブサイトも
ご覧ください!

くすりののませかた

薬の飲ませ方について剤形別・年齢別にご紹介します。

こな薬の飲ませ方のヒント

■離乳食がはじまるまで(新生児～)

スポイトや哺乳瓶用の乳首を使ってみましょう

- ① 少量の水に混ぜる

※母乳やミルクに混ぜるとくすりによっては味が変わり、母乳やミルクを飲まなくなる場合がありますので避けましょう。



- ②スポイトや哺乳瓶用の乳首を使って飲ませる

だんご状にして飲ませてみましょう

- ①小さな容器またはスプーンにくすりを入れる



- ②ペースト状の硬さになるように、1滴ずつ水を加えて練り、だんご状にする

※だんご状にするのに適した水の量はくすりによって異なります。1滴ずつ加えるのがポイントです。



- ③だんご状にしたくすりを指先につけて、ほほの内側や上顎にぬる



- ④哺乳瓶などで水を飲ませてくすりを飲みこませる

■離乳食がはじまつたら（6ヵ月ごろ～）

スプーンを使って

①少量の水または食べ物に混ぜる

※基本的には水で飲ませますが、嫌がる場合はジュースや食べ物に混ぜることもできるくすりもあります。

混ぜてはいけないものもありますので、
薬剤師に相談してください。

※飲みきれる量、食べきれる量に混ぜるようにしましょう。

※母乳やミルク同様、おかゆに混ぜると、くすりによって味が変わり、おかゆを食べなくなる場合がありますので避けましょう。

②スプーンを使って飲ませる



■ストロー飲み、カップ飲みができるようになったら（9ヵ月ごろ～）

普段の飲み物と同じように

①カップにくすりを入れ、少量の水で混ぜる



②ストローで、またはカップから直接飲ませる

■自分でくすりを飲めるようになろう（3歳半～）

そろそろ自分でくすりを飲むこともできるようになります。

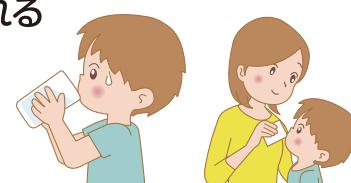
「○○くんはもう自分で飲めるかな？やってみる？」と自尊心をくすぐりながら話しかけてみましょう。

①（子ども自身で）水をすこし口の中にいれる

②くすりを口に入れる。

※手前のほうに入れるのがポイント

③ゆっくり飲みこむ



錠剤に挑戦（5歳～）

成長するにつれ、錠剤が処方されるようになります。あせらずに少しづつチャレンジしていくことが大切です。

①座って、落ち着いた状態で、錠剤を口に入れる

※保護者のもとでシートから錠剤を出すようにしましょう。

②水と一緒にゆっくり飲みこむ

※飲んだあとは口の中にくすりが残っていないか確認してあげましょう

※どうしても錠剤を飲むのが難しい場合は、医師・薬剤師に相談してみましょう



シロップの飲ませ方のヒント

シロップも、成長に合わせて飲ませ方を工夫してみてください。

「シロップは甘いはずなのに飲まない・・・」

「シロップをうすめてみたら飲んだ！」

味の濃いものに慣れていない赤ちゃんは、シロップの味をいやがっているのかもしれません。

少し水でうすめてみるのもいいでしょう。

ぬり薬のヒント

広い範囲にぬる場合は、適量を何か所かに取り分けておき、伸ばすようにするとぬりやすいです。

ぬったところを舐めてしまう場合は、ガーゼなどで覆ってみてください。また、眠っている間にぬることもひとつ的方法です。

お風呂上がりは裸なのでぬりやすいです。水気をしっかりふいてからぬるようにしてください。